

# 埋文よこはま23

- ▶未発掘の前方後円墳  
富塚古墳の測量調査
- ▶三殿台遺跡発掘50周年  
記念イベント!



## とみ づか こ ふん 富塚古墳

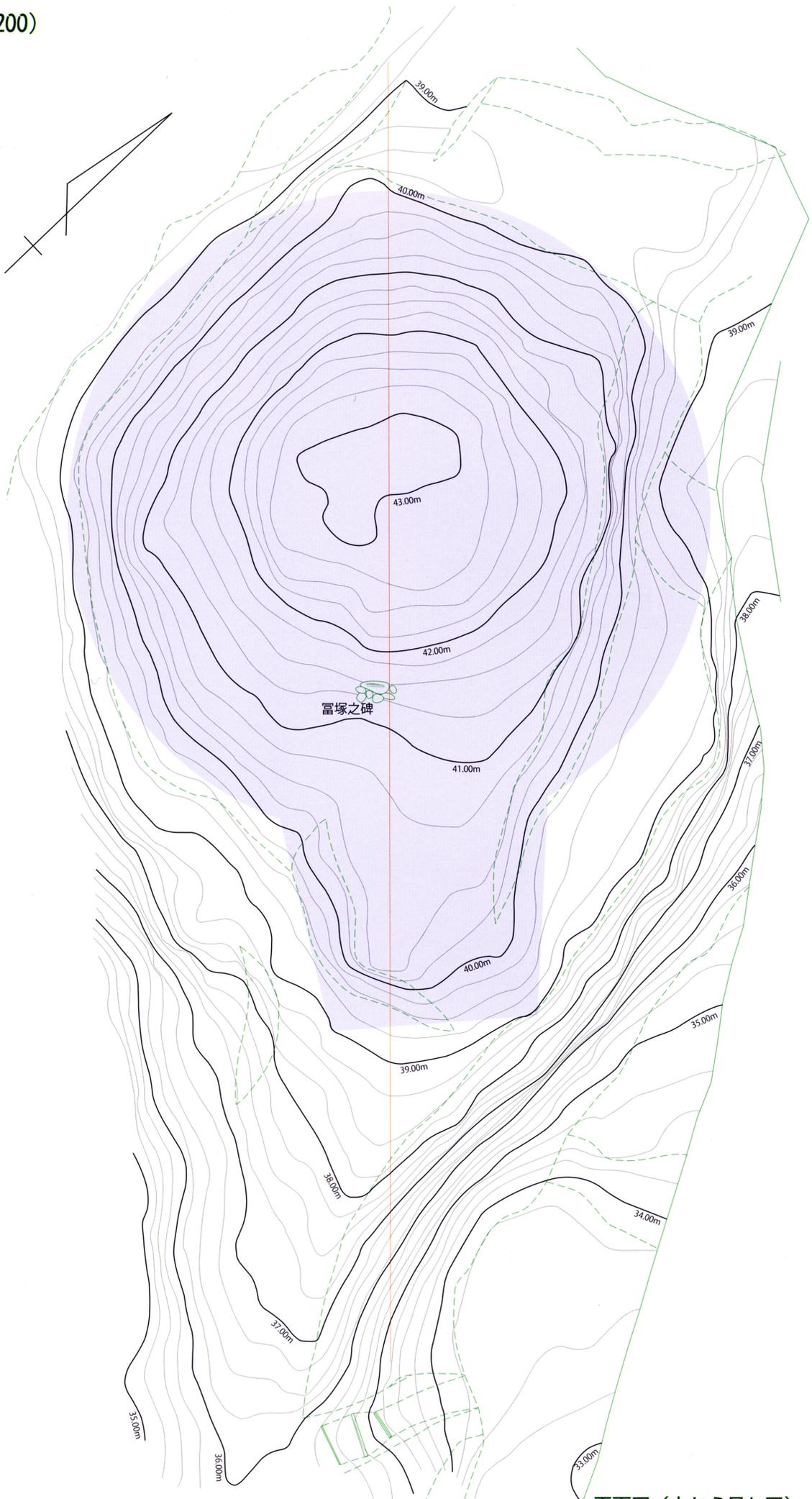
### の測量調査成果

—市内で現存する数少ない前方後円墳のひとつ—

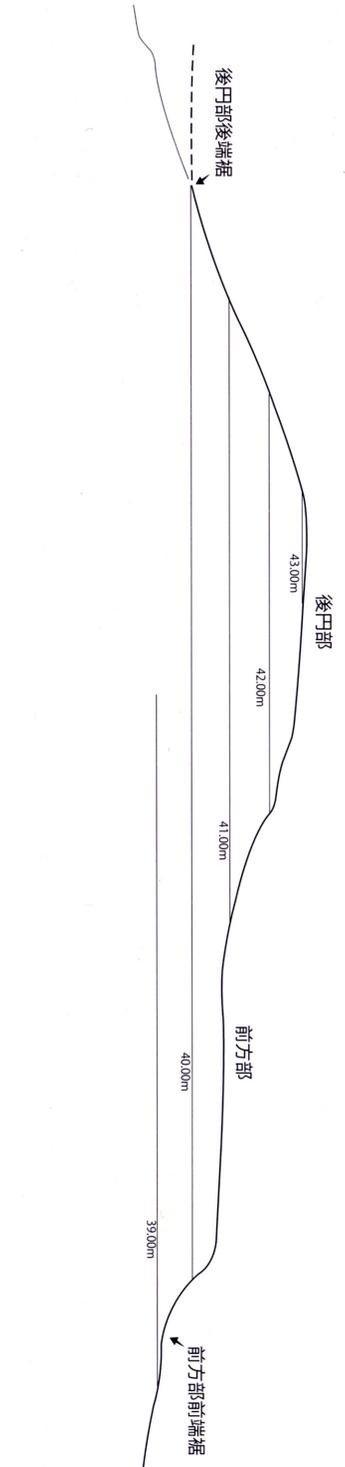
富塚古墳は、横浜市戸塚区戸塚町の「富塚八幡宮」の裏山にある前方後円墳です。神社の目の前は旧東海道の国道1号線が走り、江戸時代には宿場町（戸塚宿）として賑わった界隈です。実はこの周辺はかつていくつかの古墳がありましたが、現在は富塚古墳が残るのみとなりました。市内では、宅地化により既に多くの古墳が失われましたが、本古墳は現存する数少ない前方後円墳としても大変貴重なものです。

埋文センターでは、富塚八幡宮(宮司中川港氏)<sup>はじめ</sup>のご協力を得て、これまで未調査だった本古墳の実態を明らかにするため、平成22年11～12月に測量調査を行いました。本号ではその成果をご紹介します。 →次頁へつづく

◆富塚古墳測量図 (1/200)



平面図 (上から見た図)



立面図 (横から見た図)

※右平面図の赤線のラインを書き起こしたものです。

## ◆富塚古墳と周辺の古墳

横浜市ではこれまで12～15基ほどの前方後円墳が確認されていますが、戸塚区では今のところ富塚古墳が唯一の前方後円墳です。

富塚古墳のある戸塚町にはかつていくつかの古墳が存在して古墳群を構成していたようですが、現在は富塚をのこして全て破壊され、正確な所在が分からなくなっています。その中で富塚古墳の南西の丘陵上にあつたとされる坂下荒塚古墳からは勾玉5個と管玉が出土し、その遺物は鶴岡八幡宮に納められたと伝えられています。

## ◆富塚古墳の現況と測量調査の成果

古墳は境内の裏山の山頂付近、標高にして40mほどの高さに立地しています。神社の敷地の中にあり、聖域として扱われているため、開発から守られてきました。

測量は広葉樹の葉が落ちるころ、11月下旬より12月にかけて断続的に行いました。

測量の結果、全長約32m、後円部直径約24m、後円部高約4m、前方部前端幅約8m、前方部高約1.5mの前方後円墳であることが分かりました。後円部に対して非常に小さな前方部を南東方向に向け、やせ尾根を巧みに利用して築かれています。東側面は大きく破壊をこうむっており、旧状をとどめていませんが、墳頂や後円部西側斜面は大変残りがよく古墳らしい景観を今に残しています。

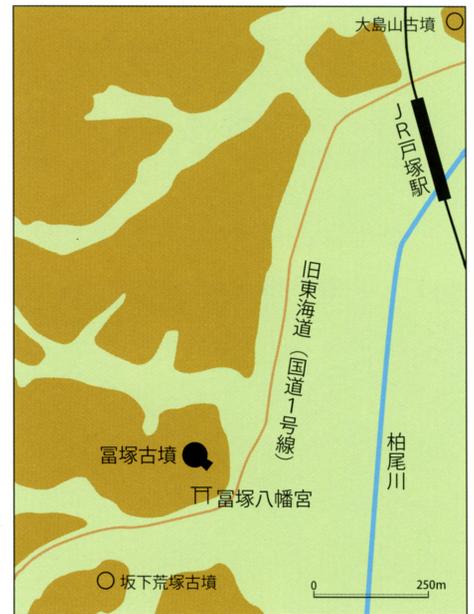
## ◆古墳の年代は？

当古墳の埋葬施設や出土品はいっさい知られていません。また、測量調査期間中も全く遺物を拾うことはできませんでした。古墳の形から考えると、本古墳のような小さな前方部のつく前方後円墳（帆立貝式古墳とも異なる）は南武蔵では東京都狛江市の狛江亀塚古墳（40m、五世紀後半）が知られています。横浜市港北区に所在する綱島古墳は埴輪や副葬品の内容から5世紀後半代に築造されたと考えられる円墳ですが、どうやら東方向に小さな前方部のような高まりがあるようで、規模と墳形において富塚古墳と最も似た古墳といえそうです。このことから、富塚古墳の築造年代がおおよそ狛江亀塚古墳や綱島古墳と同じころと推定できるかも知れません。

## ◆富塚古墳は誰の墓？

富塚八幡宮の創建は延久四年(1072)と伝えられ、「ほんだわけのみこと誉田別尊」（応神天皇）と「とつぎひこのみこと富属彦命」が祭神として祀られています。「富属彦命」は相模国造「おとたけひこのみこと弟武彦命」の二世孫で県主を務めた人とされ、古墳はこの人の墓とされていることから古来より「富塚」と呼ばれ、ひいてはこの「富塚」が「戸塚」の地名の由来とも伝えられています。

この古墳が本当に「富属彦命」の墓であるかどうかは残念ながら確かめるすべがありませんが、この伝説は山頂の前方後円墳が、当時戸塚一帯を治めた人物の墓であることを如実に物語っていると言えます。



富塚古墳の位置と周辺の古墳



富塚八幡宮の社殿 この奥に古墳がある



前方部から後円部と「富塚之碑」を臨む



参考：港北区綱島古墳測量図

横浜市歴史博物館 特別展

# 大昔のムラを掘る—三殿台遺跡発掘50年

今年、昭和36年夏に三殿台遺跡の全面発掘調査が行われてから50年目にあたります。発掘は、近隣に暮らす人々の協力のもと、市内小・中学校の教職員・児童・生徒や各大学から参加した学生たちによって実施されました。当時としては稀有な、機械力を導入した全面発掘によって、縄文・弥生・古墳の各時代にわたる250軒以上もの竪穴住居跡が発見され、空前の規模の発掘となりました。この当時、集落遺跡を全面発掘することは大変珍しかったのです。

今回の特別展では、日本考古学史上にその名を残す三殿台遺跡の調査成果と、その後の史跡としての保存・活用の歩みを振り返ります。

開催期間：平成23年4 / 9 (土)～5 / 29 (日)

休館：月曜日（祝日の場合は翌日）

会場：横浜市歴史博物館 企画展示室  
横浜市営地下鉄「センター北」駅下車 徒歩5分

観覧料：一般400円、高・大300円、小中200円  
常設展セット券  
一般600円、高・大400円、小中250円

## 主な展示品

- 三殿台遺跡出土遺物
- 三殿台遺跡の発掘に関する記録類
- その他、昭和の中頃に発掘された  
横浜市内の遺跡出土遺物  
(南堀貝塚・市ヶ尾横穴墓群・  
朝光寺原遺跡等)

※その他、土器焼き・フロアレクチャー等  
イベントも行います。  
詳しくは横浜市歴史博物館ホームページで。  
<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/>

※横浜市三殿台考古館でも様々なイベントを  
企画しています。こちらホームページで。  
<http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/shisetsu/sandd/>



発掘に参加した人々

主催：横浜市歴史博物館、(財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター、横浜市三殿台考古館 共催：横浜市教育委員会

「埋文よこはま」は横浜市域で発掘調査された遺跡や出土した遺物を紹介する広報紙です。

## 埋蔵文化財センターのご案内

### JR根岸線「港南台」駅

2番バス乗り場より神奈中バス港36・86系統「上郷ネオポリス」行き、または港40系統「栄プール」行き、「上郷ネオポリス」下車徒歩1分

### 京浜急行「金沢八景」駅

国道沿い1番乗り場より神奈中バス金24・25系統「上郷ネオポリス」行き、終点「上郷ネオポリス」下車 徒歩1分

- ・見学等の施設利用は、平日の9～17時となっています（受付16時まで）。
- ・施設利用にあたっては、事前にご連絡ください。

## 埋文よこはま23

発行日 2011年2月28日

編集・発行 財団法人 横浜市ふるさと歴史財団

埋蔵文化財センター

〒247-0024 横浜市栄区野七里2-3-1

TEL. 045-890-1155

FAX. 045-891-1551

ホームページ <http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/maibun/index.html>